

『悪役令嬢はメンデレ国王陛下に今度はHな懲罰されるなんて聞いてません』

番外編シナリオ風

【ニンジン】



禁断りんご 大虹蓮水

ディルアーバイン帝国、ゾディアーク城にて。

平穏無事な日々を送っていた、あるときのこと。

レグルス国王は足早に回廊を歩きながら、妻である王妃に向かって声を荒げていた。

SE城の回廊にレグルスの足音が響き渡る

レグルス「（毅然と・高圧的に）……ええい、下がれと言っている！」

レグルス「（怒った様子で）いくら愛しい妻であろうと、

それ以上は、口を慎まないか……！」

レグルス「（ツツコミ風に）っ……この私に、

……ニンジンを！ 食べさせようなどっ！

煮込みカレーならニンジンも溶けるとかそういう問題ではない、
なんかあのっ、甘くてエグみのある味がいやなのだ！」

レグルス「（溜息）私は……かつて食中毒によって倒れたレオのことで、
食べ物に戻してしまう摂食障害を起こしていた。

だが、君の手作り料理なら……食べられるようになったのだ。

それは君が、魔法では一瞬だからと、愛情込めて作ってくれるからなのだが」

レグルス「……ニンジンだけは、どうしても！ きらいなのだ！」

レグルス「いやだ、絶対に食べないぞ。

……いやだ、いやだっ、いやーなーのだー！」

レグルス「……な、なんだ、その……

『大きな子どもかな？』、みたいな顔は……」

レグルス「つ、私の体のためを思っ^て、しよげるとは……

我々は生身ではないのだから『体』といっても虚構に過ぎないというのに、

……か、可愛いすぎないか……？」

レグルス「……、そこまで言うのなら……条件がある」

レグルス「【食欲】、【睡眠欲】、そして【性欲】は、

生きる上で必要な三大欲求だ。

——そう、我々AⅠには、本来、必要のないもの……

ゆえにそれこそが、人間らしきと言える。

だから私は【欲望】という情動を大切にしたいのだが」

レグルス「（意地悪に）何を言いたいか、わかるか……？

そんなにも私にニンジンを食べさせたいのなら……

君がその体で、より美味しく調理してくれないか」

レグルス「いや。腕を振るって、君のカラダを料理するのは……私か」

レグルス「つまりだ……

君が下のお口でニンジンを^{くわ}咥え込み、淫らによがる姿を見たら……

私はきつと、そのいやらしいニンジンを、口に含みたくなるであろう。

くっくくく……！」

レグルス「……、あ。

私のニンジンが、早々に^{たっ}勃ってしまったぞ？」

レグルス「君はコレが好物であったな……。

こちらもあとで、君のお口いっぱい……

頬張ってもらおうしような」

レグルス「……ん？」

いや、私がニンジンを咥え込むのではなくてだな」

レグルス「（慌ててうろたえる）ちょっ……待て、私にっ……そんなモノ、入るわけなからう！

そっちはいくら愛しい妻であっても、駄目に決まっ……

や、やめろっ……やめないか！

王の命令を聞けぬというのか、駄目だというのに、

……駄目だ、それ以上はっ、やめ……っ！

アッ………！」

レグルス「……、ぱくっ」

レグルス「……むっ。これは……

千切りにしたニンジンをおリーブオイルとワインビネガーでマリネしたフレンチ、

【キャロット・ラペ】、か……」

レグルス「ワインビネガーの風味ですっきりとした美味しさが引き立ち、

食欲をそそること請け合いではないか！

ははっ、さすが我が愛しい妻だ！」

レグルス「（嬉々として）ああ、これなら私でも食べられるぞ！

食べるから……」

レグルス「（急に口ごもる）あ、アールプレイのほうは、

……いやだから……」

【完】